

サイズを超えた低音が
モリモリひねり出る

傅 信幸



スピーカーシステム

アルベド

Agadia

¥5,800,000(ペア)

型式:2.5ウェイ3スピーカー・トランスミッションライン型

主要ユニット:ウーファー・20cm逆ドーム型、ミッドレンジ・18cm逆ドーム型、ツイーター・2.5cm逆ドーム型

感度:86dB/2.83V/m インピーダンス:11Ω 寸法/重量:W250×H1,080×D460mm / 62kg

備考:写真の価格・仕上げはグロッシェラッカーパールルビーレッド、他にグロッシェラッカーピアノブラック、グロッシェラッカーウォールナットあり。

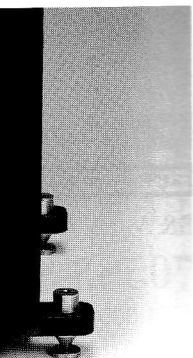
※価格でウォールナット(¥5,200,000)あり 問合せ先:アイレックス(株) ☎042(312)2887

ス

スピーカー設計者たちは、空気との戦いをしてる。エンクロージニアという限られた空間の空

ーンツと言う「笛の音」になってしまふのだ。スピーカーのエンクロージャー内部に長い音道を形成するのだからこうなってしまうはずだ。

分もヘルムホルツの共鳴箱を応用して内蔵させること(Helmholtzと名付けられている)、音道の形状を工夫すること、笛の音を吸



トランスミッションラインの開口部をクロスオーバーネットワーク同士をはんだ付けする。このようにして音を吸い込む。

スピーカー設計者たちは、空気

との戦いをしている。エンクロージュアという限られた空間の空気を制覇するためである。

現在、エンクロージュアは密閉型かバスレフ型にほぼ二分されるが、それに加えてトランスミッションラインという方法もある。スピーカーの背面に出る音(音圧)を長い音道に導いて低音を増強させる方法だが、トランスミッションラインでは共鳴周波数だけが得られるのではなく、倍音がたくさん乗ってしまうことになる。

たくさん乗ってしまう倍音成分のため、トランスミッションラインの失敗例では、ドラムのドンツという音もベースのブンツという音も、ブ

ーンツと言う「笛の音」になってしまふのだ。スピーカーのエンクロージュア内部に長い音道を形成するのだからこうなってしまうはずだ。

トランスミッションラインを採用したアルベド(ALBEDO)のスピーカーは、トランスミッションラインの成功例だ。

アルベドの創業者であり設計者である人物は、1990年代からトランスミッションラインの研究を始めたという。そしてトランスミッションラインの設計のためのコンピュータ解析ソフトウェアを自社開発して、トランスミッションラインの動作を分析したのだそう。なるほど、計算尺しかなかった時代にはできなかった仕事だ。

分もヘルムホルツの共鳴箱を応用して内蔵させること(Heinholmeと名付けられている)、音道の形状を工夫することで、笛の音を吸収してしまうことに成功していると思われる。

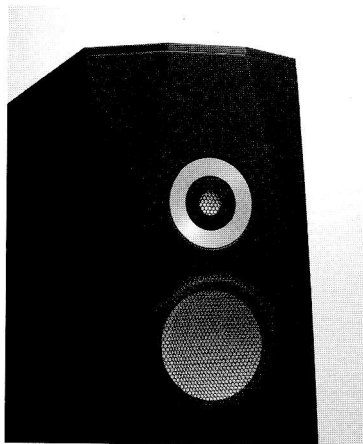
ここに紹介するアルベドのアガディア(Agadia)は、日本に輸入されているアルベド製品、5機種に加わる6機種目で、高さ約110センチのプロアースタンドイング型。2・5ウエイの使用ドライバー(ユニット)の振動板はセラミック製を基本としている。ネットワーク回路は使用部品をプリント基板に取り付ける、などという簡単な作りではなく、独自

アルベドでは、トランスミッションライン研究の末、最新のコンピューター解析では吸音材の量まで調整できるようになっており、そもそも笛の音になってしまふ原因の高周波成

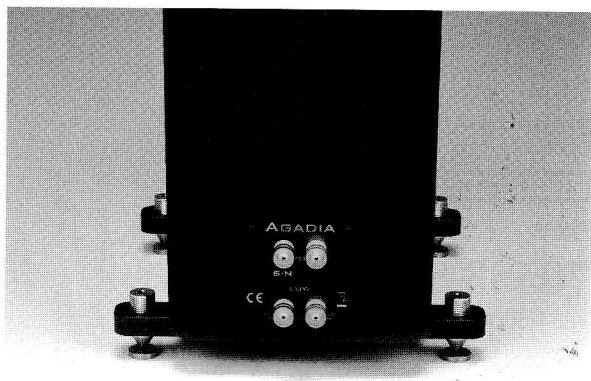
分もヘルムホルツの共鳴箱を応用して内蔵させること(Heinholmeと名付けられている)、音道の形状を工夫することで、笛の音を吸収してしまうことに成功していると思われる。

搭載ウーファーは20センチ口径と大口径ではないし、エンクロージュアも細身なので内容積は十分とは思えないのだが、そこはトランスミッションラインの成功例の強み。ミッドベースの

程よい膨らみに支えられてスピーカーのサイズを超えたモリモリの低音がひねり出される。音像は太くてたっぷりとした厚みがある。セラミック製の振動板を使ったドライバーを搭載したスピーカーの場合、カンカンとした付帯音が乗ってしまう例があるが、本機では音の粒立ちは良く、カンカンとした付帯音はいっさい感じられない。弦楽合奏はとて艶やかであり、瑞々しく可憐な歌声で唄い上げるソプラノが美しい。



搭載されるユニットはThiel & Partner製のセラミックドライバーが基本。キャビネットは30mm~40mmの積層板と金属板を組み合わせ、不要な箱鳴りを低減しているという。



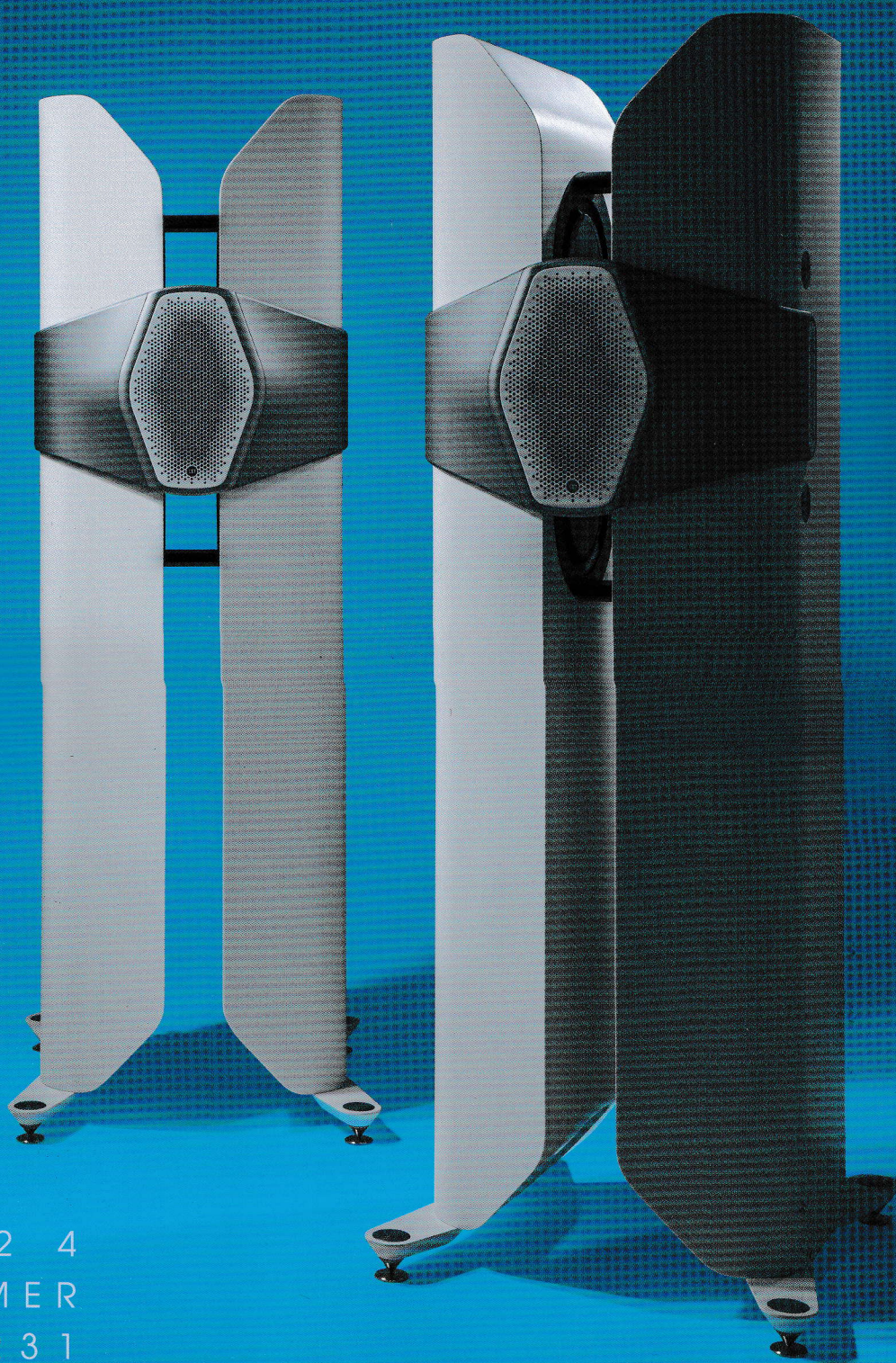
写真では見づらいかもかもしれないが、トランスミッションラインの開閉部はスピーカーターミナル上部に備える。クロスオーバーネットワークはプリント基板やケーブルを使用せずパーツ同士をはんだ付けすることにより音声信号の損失を最小限に抑えている。

2024年6月4日(発行・発売)(年4回刊)第58巻3号通巻231号

ISSN1345-6105

Stereo Sound

特集 **ベストセラーモデル** 選ばれる理由
評論家が迎え入れた新たなオーディオコンポーネント



2 0 2 4
SUMMER
No. 231